

はしがき

法科大学院（ロースクール）が開設されて10年が過ぎ、現行司法試験制度も10年目を迎えた。しかし、期待されたにもかかわらず、法科大学院は厳しい環境にさらされ、学生に対する学修指導も苦勞が多い。

このような状況に鑑み、これまでの司法試験の刑法の問題を徹底的に解剖し、何が問われているか、その問題点を正確に抽出しながら解説を加え、事案解決能力を涵養すると同時に、刑法総論・各論の近時の重要判例を厳選して取り上げ、法科大学院等における刑法の実践演習教材を作成することが本書の企画趣旨である。本書は、3部から成る。第Ⅰ部は、重要判例編であり、総論12件、各論12件を精選し、理解を深める解説を付したものである。第Ⅱ部は、司法試験論文問題編であり、過去9年分の論文問題を掲載し、答案作成上参考になるよう読みごたえのある解説を付したものである。模範答案を示してそれを覚えるというのでは実力が身に付かない。編者としては、過去の問題を理論的かつ実践的に事案解決に向けて深く掘り下げつつ考える力を身に付けてほしいと願う次第である。第Ⅲ部は、司法試験択一問題編であり、過去9年分の択一問題を問題領域毎に精選して再編し、若干の解説を付したものである。本書は、単なる受験技術を教示するものではなく、過去の司法試験問題を正面から受け止めて論点の正確な理解と重要判例の位置づけ、ないし理解を十分に図りつつ、考える力を蓄え、しかも将来法曹になったときに問題解決を図る基礎的な実践能力を涵養することを目的とするものである。その意味で、演習書としては、かなりユニークな内容になっている。本書が法科大学院等での演習や自習ないしグループ学習での教材として広く活用されることを期待したい。

本書の執筆者は、各法科大学院で直接刑法の授業を担当しておられる中堅の方々であるが、本書の企画趣旨を十分に汲んで執筆をしていただいた。ここに

編者として謝意を表したい。また、法律文化社編集部の中川直之氏には共に企画を練りながら本書の刊行に向けて様々なご配慮をいただき、お世話になった。併せて謝意を表したい。

2015年7月
早稲田大学大学院法務研究科教授
甲斐 克則